

解答

E
I ウ II ア III オ IV イ
ものの差異に気づき区別がつくる」と、言葉は生まれるのだといふ」と。

問一 イ ウ Ⅱ ア Ⅲ オ Ⅳ イ [E]
問二 ものの差異に気づき区別がつくことで、言葉は生まれるのだといふこと。
問三
問四
問五
問六
問七
問八
宮沢賢治にとつては、日にする言葉はすべて違つものなので、差異をあらわす言葉を使ってそれぞれ表現されたということ。
ア ○ イ × ウ ○ エ ○

塾に行っていると思っていたアユコが家にいたから。

う世界の「こと」のように感じているのではないかと思つたから。

- ① 敵視
- ② 因果
- ③ 飛散
- ④ 運賃
- ⑤ 節

① ももよみ
② ひかく
③ ハハリハ
④ ゆた
〔れる〕
⑤ す
〔ませる〕

○
菜
○
功名
○
筆
○
穴
○
船

解
說

問三 筆者は、「区別がつく。そこに差異がある。だから言葉が生まれるのです。」「差異がわかることが言葉を生じさせてくれるのです。」――三歳二ヶ月。

「宮沢賢治にとつては、目にする雲はすべて違う雲であつて、それは一回性の命との出会いでもありますた」とあり、宮沢賢治にとつて雲はひとつひとつ差異があつたため、それそれが違つた言葉で表現されたのだということがわかります。

アユコは、世界のいろんな町を走る列車のビデオを見て、うちに「ぜんぜん知らない町に行くって、どんな気持ちなんだろう」と、リサのことを思いだししています。「リサは練習したみたいにしゃべっていた」とあることから、リサがまだ自分が転校していく場所について知らず、自分とは違う世界のことと感じているんじゃないかと思いあたつたと考えられます。

問五